Town Scape
タウンスケープ

幸手市

みんなでつくる　幸せを手にするまち　幸手

幸手市長　木村 純夫氏

市長のメッセージ

「幸」を冠する市は、全国で唯一「幸手市」のみです。

権現堂桜堤は、“絶景”を謳う冊子でも紹介される埼玉県を代表する観光名所であり、今では四季折々の花を楽しむことができます。また、古くは、日光道中と日光御成道の合流する宿場町として栄え、その名残を今でも見ることができます。花に囲まれ、歴史あるわがまち幸手では、市民の皆様の明るい未来を目指し、「みんなでつくる　幸せを手にするまち　幸手」の実現に取り組んでまいります。

はじめに

幸手市は、埼玉県の北東部に位置し、北を久喜市と茨城県、西を久喜市、南を杉戸町、東は江戸川をはさんで千葉県にそれぞれ接している。市域は、東西8.8㎞、南北7.6㎞で、面積は33.93㎢、人口はおよそ5万人である。

市内には、東武日光線幸手駅があり、ほかにも南栗橋駅や杉戸高野台駅、JR宇都宮線東鷲宮駅などを身近に利用することができる。道路についても、2015年3月に圏央道の幸手ICが開通したことで、交通の利便性が一段と向上した。

2019年3月に橋上化され、新しい駅舎に生まれ変わった幸手駅には、東口と西口にそれぞれ「階段アート」が施された。東西自由通路の「ステーションギャラリー」と改札前の「改札口ギャラリー」でも作品展示が行われるようになり、幸手駅はアートを身近に感じられる駅として親しまれている。

幸手駅の階段アート（左:東口、右:西口）

権現堂桜堤を彩る花々

幸手市の権現堂桜堤といえば、今や埼玉県内のみならず関東でも有数の桜の名所として知られているが、元々この堤は、江戸時代、利根川の支流である権現堂川が何度も氾濫を繰り返し、遠く江戸の町にまで大きな被害をもたらしたことから、その治水のために築かれたものだった。

大正期、堤に植えられたおよそ3,000本の桜の木は、太平洋戦争終結後、燃料として伐採されたが、その美しい桜並木を惜しむ声が高まり、1949年、あらためて約3,000本のソメイヨシノが植樹された。現在も、その中の約1,000本がおよそ1㎞にわたって桜のトンネルを作り、黄色く染まった周辺の菜の花畑とともに、見事な景色を描き出す（表紙写真）。

桜で名高い権現堂桜堤だが、今では桜以外の季節にも美しい花々を楽しむことができる。1996年からあじさいの植栽が開始され、現在では1万6千株ほどの白や紫のあじさいが初夏の堤を彩る。夏のひまわりに加えて、2000年に植え付けをスタートした曼珠沙華も今や300万本に増え、2009年からは水仙も冬の堤に賑わいをもたらしている。

毎年3月下旬頃に「幸手桜まつり」が開催され、多くの花見客で賑わってきた権現堂桜堤だが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら昨年に続き、今年も開催は中止された。四季折々、花を楽しめる権現堂桜堤へ、多くの人が気軽に足を運べるようになる日が待ち遠しい。

幸手市概要

人口(2022年5月1日現在)	49,617人
世帯数(同上)	22,949世帯
平均年齢(2022年1月1日現在)	51.2歳
面積	33.93k㎡
製造業事業所数(工業統計)	83所
製造品出荷額等 (同上)	1,142.4億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	394店
商品販売額 (同上)	774.9億円
公共下水道普及率	46.4%
舗装率	81.1%

資料:「令和3年埼玉県統計年鑑」ほか

主な交通機関

●東武日光線　幸手駅
●圏央道 幸手ICから市役所まで約3km

✺市内循環バスが運行開始

幸手市では、それまで運行されていたデマンド交通が昨年12月で廃止され、本年1月からは市内循環バスの運行が開始された。

デマンド交通は、路線を定めない区域運行型の予約制乗合運行バスである。市内全域を対象に事前に乗り降りする場所を登録することができ、利用者は自宅の前を登録することも可能になっていた。そのため、利用時間帯と場所を予約すれば、自宅から公共施設や病院、商業施設など希望する場所へドアtoドアで移動することができた。

しかし、ワゴン車両2台で一日1台あたり9便運行されるデマンド交通では、病院への通院を希望する利用者が重なることも多く、なかなか予約が取れないといったケースが増加した。市では、市民アンケートを実施し、市内循環バスの希望者が多かった結果を踏まえて、デマンド交通から切り替えた。

新しい市内循環バスの運行日は月曜日から土曜日で、日曜日や祝日、年末年始は運休となる。運賃は、大人1回が200円だが、1日乗車券が300円になっている。幸手市役所または保健福祉総合センター(ウェルス幸手)を経由地とすることで、別のコースへの乗り換えが可能になっており、こうした場合、1日乗車券の利用がお得になる。市内循環バスは、中心市街地に点在する病院や公共施設等を中心に定時運行することで、増加する高齢者など、より多くの市民の日常生活を支えている。

✺ライフスタイルブック「今日も、幸手日和」

昨年3月、幸手市はライフスタイルブック「今日も、幸手日和」を発刊した。この冊子は、全国の自治体の中で唯一「幸」がつく市として、幸手市で生活する人々が日常でどんな幸せを感じながら暮らしているのかを紹介し、幸手市に興味を持ってもらうことを目的に作成された。

ライフスタイルブックの作成には、幸手市PRサポーターをはじめ、多くの方たちが参加した。幸手市PRサポーターは、幸手市の魅力を広く発信するボランティアで、2019年度に第1期生、2020年度に第2期生が選ばれた。日頃から、市内で行われたイベントのレポートや、おすすめのお店や市内で活躍する人たちを、市公式SNS等で発信している。幸手市PRサポーターの方たちが、それぞれの目線で見つけた幸手市の魅力がふんだんに盛り込まれた冊子を、手に取っていただきたい。　(井上博夫)

市民の「幸せ」がたくさん詰まった冊子・ライフスタイルブック「今日も、幸手日和」